

論文概要

【研究目的】

オノマトペの表記は、「擬音語はカタカナ表記、擬態語はひらがな表記」が推奨されている(文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説:国語編』)。一方で、擬音語がひらがな表記、擬態語がカタカナ表記になっている場面も見かける。国語教育において推奨されている表記とは反対の表記法が存在するのはなぜなのか。本研究では、オノマトペを多く採集できる漫画で、どのように表記の使い分けがされているのかを検証する。

【調査方法】

調査する資料は、1987年から1996年にかけて『週刊少年サンデー』(小学館)において連載された高橋留美子による『らんま1/2』の単行本版である。『らんま1/2』全体を通して、オノマトペ表記の傾向を調査するために、単行本全38巻のうち1、6、11、16、21、26、31、36の計8巻からオノマトペを採集した。採集したオノマトペは、①表記(ひらがな、カタカナ、その他)②種類(擬態語、擬音語、どちらとも取れる)③オノマトペの対象(自然、人・動物、事物)の観点から分類した。分類基準はすべて、小野正弘編(2007)『日本語オノマトペ辞典』を参考にして定めた。(今回はひらがなとカタカナの使い分けを調査するため、①表記「その他」に分類したオノマトペは除く。)

【調査結果】

調査に使用するオノマトペは全部で5488例。このうちひらがな表記は3852例、カタカナ表記は1636例だった。つまり、全体の7割がひらがな表記で、3割がカタカナ表記だった。

風に関するオノマトペ

自然を対象とするオノマトペは、「天気」「温度」「水・液体」「火・土」に分類した。「天気」のうち、風に関するオノマトペを紹介する。ひらがな表記、カタカナ表記とも多かった「ひゅー」を含むオノマトペ(「ひゅー」系オノマトペと呼ぶ)に着目する。

【「ひゅー」系オノマトペの用法】

- ①風そのものを表す用法
- ・場面を屋外と設定する時
  - ・カタカナ表記が多い
- ②静かな様子を表す用法
- ・コマの中にぼつんと人いる時、会話をしている突然沈黙する時
  - ・ひらがな表記が多い

用例数	風そのもの	静かな様子
ひらがな	2	14
カタカナ	22	5

声に関するオノマトペ

人・動物を対象とするオノマトペは、「動作・状態」「感情・感覚」「声」「性格・性質」「体格・姿」に分類した。「声」のうち、人の声を表すオノマトペを紹介する。

ひらがな表記、カタカナ表記とも多かった「きゃー」や「わー」を含むオノマトペ(それぞれ「きゃー」系オノマトペ、「わー」系オノマトペと呼ぶ)に着目する。

【「きゃー」系オノマトペの用法】

- ・1人が叫ぶ時(ひらがな表記のみ)、複数人が叫ぶ時
- ・ひらがな表記の方が多く
- ・女性に対して使われる

【「わー」系オノマトペの用法】

- ・複数人が叫ぶ時
- ・カタカナ表記の方が多く
- ・男性や不特定多数に対して使われる

用例数	「きゃー」系 オノマトペ	「わー」系 オノマトペ
ひらがな	24	11
カタカナ	10	25

光る様子を表すオノマトペ

事物を対象とするオノマトペは、「動き・変化」「形・状態」「音・道具・金属」「程度」に分類した。「形・状態」のうち、光る様子を表すオノマトペを紹介する。

表記による違いと 用例数	音素	文字フォント	光の対象		
ひらがな	「きら」「ぎら」 をもとにしている (例)「きらきら」「ぎらり」	線	13	登場人物の目・姿	19
		丸みのある 白抜き文字	8	フォークや刀などの金属	2
カタカナ	「カッ」をもとに している (例)「カカッ」「ピカッ」	角ばった 白抜き文字	9	雷	6
				爆発	3

番外編:『らんま1/2』特有のオノマトペ

『らんま1/2』特有のオノマトペとして、「どがしゃーん」「どぶしゅ」のような、「ど」+「一般的なオノマトペ」という形をとるものを紹介する。この「ど」は、品詞を強調する時に用いる接頭語「ど」である。

「ど」有	ぶつかる				水に関する				風を切る
	どがしゃーん	どげん	どごーん	どぼち	どばーん	どぼしゃーん	どびしゃ	どぶしゅ	どびゅ
ひらがな	5	1	3	1	5	4	1	1	2
カタカナ	1	0	0	0	1	2	0	0	17

  

「ど」無	ぶつかる				水に関する				風を切る
	がしゃーん	げん	ごーん	ぼち	ばーん	ぼしゃーん	びしゃ	ぶしゅ	びゅ
ひらがな	0	4	9	4	4	12	0	3	1
カタカナ	6	0	0	2	3	8	0	0	22

「ど」有と「ど」無を比べると、用例数は「ど」無のほうが多い。それは、「ど」無オノマトペが一般的だからである。「ど」有オノマトペは特殊な形であり、特殊な形のオノマトペはひらがな表記を用いる傾向がある。

参考文献

〈書籍〉

石黒圭(2007)『よくわかる 文章表現の技術V 文体編』明治書院。(p.153)

小野正弘編(2007)『日本語オノマトペ辞典』小学館

高橋留美子(1988~1996)『らんま1/2』1、6、11、16、21、26、31、36巻 小学館

〈WEBサイト〉

文部科学省「『国語編』小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説」(最終閲覧日:2021年9月11日)

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_jcsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_jcsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_002.pdf)

矢口幸康(2016)「表記形態がオノマトペの意味的印象に与える影響」聖徳大学研究紀要 第49号 1-5(最終閲覧日:2021年9月17日)

[https://seitoku.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=258&item\\_no=1&attribute\\_id=22&file\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://seitoku.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_action_common_download&item_id=258&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1&page_id=13&block_id=21)